

平成29年度 全体会 議事まとめ

	活動報告及び計画	報告内容	質疑等
定例会及び研修会	<p>【昨年度定例会】 第1回:平成28年7月21日(奄美市名瀬) 第2回:平成28年10月20日(奄美市笠利) 第3回:平成29年1月19日(大和村) 研修会:差別解消法について(平成29年3月15日)毎日新聞論説委員:野澤和弘氏</p> <p>【今年度定例会】 第1回:平成29年7月20日(奄美市名瀬) 第2回:平成29年10月19日(") 第3回:平成30年1月18日(") 研修会:検討中</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・それまでは、テーマに沿ってグループワークを行い意見を出してもらっていたが、課題の共有に留まり協議決定までには至らなかったため、昨年度より会議形式に変更。 ・農福連携に関する意見書や合同部会の開催等へも繋がった。 ・研修会については、差別解消について合理的配所や協議の場の必要性について示唆されたものであった。 ・話し合うことで、地域の課題を共有したり行動を考えていく形になるように話せる場の設定を進めていく。 ・地域のバリアフリーについて、プロジェクトチームを作り公共施設等を確認するような活動を検討していく。 	
専門部会活動報告及び計画	精神部会 (毎月開催)	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域で開催できたことで、地元の支援者を含め地域特性のあるニーズについて検討できた。 ・各部会との協力や連携ということでの合同部会の開催提案。 ・精神の問題について、参加者が幅広くなっている状況にあり課題を絞りながら開催していく。 ・「悩む」を「考える」に転換する部会へ。 	<p>(質問):放課後等でサービスなど、児童に関するサービスや事業所が増える中、児童発達支援管理責任者が参加できるような部会はどうしたらよいのか?</p> <p>(事務局より):現在、サービス管理責任者部会は入所施設系で集まっているが、グループホームなども視野に入れた活動が今後大切になってくると思われる。「地域生活支援部会」というような名称で、多様な職種で構成するような部会も検討が必要だと考える。児童発達支援管理責任者についても、何らかの形で部会に参加してもらいたいような構成を今後検討していくが課題である。</p>
	相談支援部会 (2か月に一回開催)	<ul style="list-style-type: none"> ・新規事業所も多く、連携と情報共有を図る。 ・福祉サービス事業所が作成する個別支援計画との整合性と連携について確認 ・児童部門の相談支援について、通常の部会の30分前から開催し学びを深めている。 	
	子ども部会 (年3回開催)	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後等デイサービス事業所が2か所新設されたこともあり、支援者向けの研修会を開催 ・相談支援部会との連携ということでの合同部会開催の検討 ・小学校の児童クラブとの連携を検討 	
	就労支援部会 (年4回開催)	<ul style="list-style-type: none"> ・開催頻度を増やし、情報共有や資質向上のための研修会を開催した。 ・地域特性を活かした共同受注や農業法人との連携、相談新事業所との連携協力 ・大島養護学校がプレ的に開催する「アビリンピック大島大会」への部会としての協力の検討 	
	サービス管理責任者部会 (年6回開催)	<ul style="list-style-type: none"> ・入所施設のサービス管理責任者が一堂に会して協議する場の確保ができた。 ・成年後見の必要のある人がどれくらい存在するのか、各施設で集約する。 ・意思決定ガイドラインに沿った支援について協議していく。 ・研修を企画し入所施設としてのスキルアップや地域移行についての課題を共有する。 	
その他	障害者差別解消支援地域協議会について	紛争解決する場ということではなく地域にどういう状況があるのか、関係機関で確認・協議する場として活動することになる。	今年度、ぴあリンク奄美を事務局として市町村担当者と協議し、話し合う場を設定する予定。
	ぴあリンク奄美の活動報告と計画	<ul style="list-style-type: none"> ・新規事業所が増え、専門性の確保・質の向上に寄与する研修や支援が必要である。 ・定例会の前に部会を開催するように進めることで、課題の集約ができた。 ・全体会や定例会において、パワーポイントを使用した説明場面を作ることで報告内容をわかりやすく図ることができた。 ・ホームページの会やイベントごとに更新したり、イベントの案内をすることで、速やかな情報提供ができた。 	<p>(質問):ホームページの作成について毎年上がっているのか?閲覧のカウンターの設定は?</p> <p>(事務局より):ホームページの更新は自分たちでしているが、枠の設定や難しいところは専門家に依頼。閲覧数については、カウンターを作るより新着情報が掲載した際にお知らせが届くメール登録を進めた方がいいということで、登録をお願いしている。その費目については、パンフレットの費用に使用していることが多く、ホームページの更新については少ない金額だが、もっと充実させるように検討したい。</p>